



研究授業「国々の構成と地域区分」：新指導要領を ふまえて

片山, 俊夫

(Citation)

兵庫地理, 47:41-43

(Issue Date)

2002-03-31

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90002440>



研究授業「国々の構成と地域区分」

－新指導要領をふまえて－

片山 俊夫

1. はじめに

新学習指導要領において、中学校社会科の地理的分野は大きく再構成されている。改訂の基本方針は、知識の厳選を図る一方で、学び方に関する学習の充実を図ることにある。従来の網羅的な知識偏重の学習ではなく、地域の規模に応じた地域的特色を明らかにする視点や方法を学ぶことに重点が置かれている。ここでは、地理的分野の最初の学習項目に位置づけられている「世界と日本の地域構成」について、2001年6月5日（火）に実施した研究授業の内容を報告する。

2. 学習指導計画

(1) 単元：「国々の構成と地域区分」

(2) 単元設定の理由

これまで地球儀や世界地図を活用し、緯度と経度・時差・大陸と海洋の分布・地球儀と世界地図の違いなど、地球的規模での位置をとらえる基礎的知識や技能を学習してきた。また、さまざまな国に関心を持ち知識を増やすために、新聞記事の中から国名をさがし、その内容の要約とともに発表する活動をしてきた（授業の始めに1班ずつ）。さらに、「物」を通して、世界の国々とのつながりを実感させるとともに国名の知識を増やすため、「外国製品を探そう」という発表活動を実施している。生徒の実態として、地名に関しては州名・国名・都市名などを混同している場合も多い。そこで、本単元では、世界を州や大陸・いくつかの区分した地域など、日常的によく使う地域区分とその範囲を理解させるとともに、地図帳を活用する技能を定着させたい。

(3) 単元の目標

- ①世界を大陸、州、いくつかの区分した地域などでとらえられることを理解させる。
- ②地図帳を幅広く利用して調べる技能を身につけさせる。
- ③さまざまな製品を通して、自分たちの生活と世界の国々がつながっていることに気づかせ、さまざまな国々や地図への関心を高める。

(4) 指導計画（全5時間）

- 第1次 世界の国々と州
- 第2次 世界の国々の面積と人口
- 第3次 いろいろな国境線
- 第4次 島国と内陸国
- 第5次 食べ物から世界が見える（本時）

(5) 本時の目標

- ①題材 食べ物から世界が見える
- ②目標 私たちの生活と世界の国々とのつながりを食べ物を通して気づかせ、世界の国々への関心を高めるとともに、地域区分の知識と地図帳の活用技能を定着させる。

- ③準備物 ・国名カード
・「食べ物から世界が見える」
（地球市民アカデミア・東京YMCA国際奉仕センター）

(6) 学習過程

第1表にまとめたので参照していただきたい。

3. 今後の課題－まとめにかえて－

今回の研究授業は、「国々の構成と地域区分」の学習のまとめとして実施したものである。授業のなかで、これまでの学習内容をふ

第1表 学習過程

学習活動	支援活動	評価の観点
1 “外国製品を探そう”を発表する。	・発表内容を模造紙に記入し、分かりやすく示す。 ※数名づつ発表	・しっかり発表ができたか。 ・発表内容をノートに記入できたか。
2 『食べ物から世界が見える』をする。 ①活動内容の説明を聞く。 ②活動をする。 ③「食べ物－国名」を発表する。	・活動内容のポイントをしっかり理解させる。 ・活動の状況を見ながら、スムーズに進行するように支援する。 ・「食べ物」「国名」カードを準備し、発表内容を全体で確認できるようにする。	・内容を理解し、協力して活動できているか。 ・しっかり発表できた。 ・しっかり聞くことができたか。
3 国名カードを持って、地図帳を活用しながら、指示されたグループに分かれる。	・これまで学習してきた知識や技能が定着するように導く。 (指示項目) 州別、大陸別 北半球－赤道直下－南半球 島国－内陸国－それ以外 面積…日本と比べて大？小？ 人口…日本と比べて多？少？ ・生徒が互いに確認しあえるように助言する。	・知識を理解し、地図を活用しながら活動できたか。 ・協力して確認することができたか。
4 カードの国の位置を調べ、配布プリントの地図に記入し、本時のまとめとする。	・机間巡視をしながら個別に地図活用ができるように支援する。 ・国名やその位置だけでなく、「物」を通して深く結びついている世界の人々の生活にも関心をもつよう話をし、次章への学習につなげる。	・地図を活用し国の位置を調べることができているか。

まえて、生徒一人一人が自ら地図帳で調べ判断して活動しなければならない場面を数多く設定した。講義形式の一斉授業では集中させ

るのが難しい生徒もそれなりに活動できていたと思う。毎時間このような活動を取り入れることはできないが、これからは生徒参加型



写真「食べ物から世界が見える」の授業風景

の授業を年間計画の中に組み入れていく必要を感じている。一方で、生徒参加型の授業においては、さまざまな生徒の反応があり、それに対して臨機応変かつ幅広い教材研究を背景とした適切な教師の援助が求められる。そ

のため、“何を学ばせるのか”とともに“生徒への理解”が不可欠となる。

また、調べ方・学び方の学習が重視されるのにもなって、その評価の研究も大きな課題である。今回の学習内容に関して言えば、地図帳の活用技能についての評価である。この点について、今回の定期考査においては、地図帳持ち込みの試験を実施した。

今後、教育課程が大きく変わろうとしているなか、これまで以上に小学校・中学校・高等学校の交流が求められる。その際、具体的な授業実践を通して、児童・生徒の学習実態をもとに交流を図っていくことが重要であろう。その意味で、今回の研究授業において高等学校の先生方に多くの示唆をいただき感謝している。

(かたやま としお・明石市立望海中学校)